

下顎智歯（親知らず）の抜歯を受けられる患者さんへ

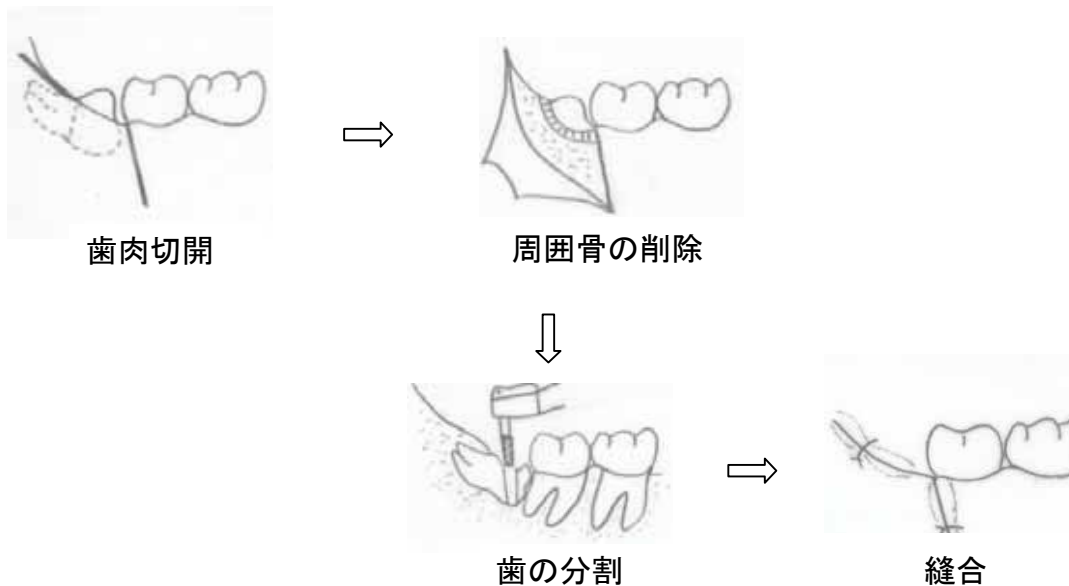
日本歯科大学附属病院

1. 埋伏歯抜歯の場合

局所麻酔を行い、麻酔の効果として下唇や舌の半分がしびれてきます。多くのケースでは歯肉（歯ぐき）を切開し、骨を露出させ、歯の周囲の骨を削ったり、歯を切り分けて（歯の分割）抜歯をします。切開した歯肉は縫って処置終了となります。抜歯後には腫れ、痛み、口が開きにくい、のどが痛いなどの症状がしばらく続くことがあります。

また、下顎の骨の中には血管、神経が通っており、智歯はこれらの神経、血管や舌の神経に近接しているため、術後に下唇や舌の知覚異常を起こす可能性があります。

一時的に知覚異常が起こることがありますが、何日も知覚異常が続いている場合はご連絡ください。



2. 普通抜歯の場合

局所麻酔後、切開や周囲骨を削ったりせずに抜歯をしますが、根の先が残ったり、うまく抜けない場合は、埋伏歯の抜歯に準じて処置します。

説明者： 科 ⑩

以上の説明を受け、処置の実施に同意いたします。

患者氏名： 本人
保護者